

私たちは考える

——ベテラン議員が、町民目線に立った
信頼される議会を目指して——

女性議員から見た議会の あり方について



関 千鶴子
総務厚生常任委員長

初当選時に議会事務局の職員の方から「女性だからといって一人でお茶くみしない方がいいよ」と言われたことを、私は今も忘れられない。また、食べるのが遅い私に「食べていいよ」と言ってくれて、同期の議員がお茶くみを始める姿も覚えてい

る。議会の中では、「女性だから」という自身の甘えや不利な条件があつてはならないと思う。

議員は、町民の皆様
の思いや願っているこ
とを聞き物事を考え、
自身のそれなりの識見

と信念を持った発言を
しなければならぬと思
う。そのために、求
められるのが「勇気」
と「奮起」であろう。

かつて、議会基本条
例を先駆けて制定した
北海道栗山町に視察に
行った際、対応いただ
いた議員に「議会は野
党」と言われた。首長、
議員はともに選挙で選
ばれた対等の立場にあ
ることを理解し、町民
の皆様の立場に立った
行動をする議員の集合
体としての議会であり
たい。

白鷹町の農業の未来に ついて



菅原 隆男
予算特別委員長

平成30年度から米の
生産数量目標の配分と
米の直接支払い交付金
の廃止など米政策等が
見直しされます。米生
産農家にとっては、所
得減少、生産過剰と米
価下落など、影響が懸
念されます。

人口減少、高齢化が
加速する中、町の「農
業振興地域整備計画書」
によると、農家世帯が
昭和50年3000世帯、
平成27年1279世帯、
農業従事者は昭和50年
4676人、平成27年
718人まで減少して
います。農業従事者の
高齢に伴う離農も増え

ており、荒廃地や耕作
放棄地が点在していま
す。

町の農業政策は、意
欲ある担い手の育成、
農地の集積・集約など
で農業経営基盤強化を
はかるとしています。
耕作放棄地は中山間地
域に多く、地域によつ
ては農地集積に課題が
あります。農業従事者
が意欲を持つて生産に
努められるよう、農業
経営の安定と将来にわ
たり持続可能な取り組
みを、農家、地域、行
政そして議会が一体と
なり取り組むべきです。